

NVC Monthly



寝屋川映像同好会会報

第108号(201807)

発行 竹田 幸男



第11回 寝屋川映像フェスティバル会場風景（小笠原さん他撮影）

■第11回 寝屋川映像フェスティバル開催

5月13日（日）寝屋川市駅前、アルカスホール、メインホールで開催、当日は生憎の雨天でしたが、会員皆さんの集客努力で、座席はかなり埋まり、盛大に開催することが出来ました。全15作品中、映像同好会会員の作品は6作を上映、客席からは温かい拍手を頂きました。

例会の窓

映像同好会6月例会

日時：2018年6月13日（水）

場所：市民活動センター4階こども部屋

出席者：新井 小笠原 佐伯 妹尾 竹田 谷
圓岡（見学）中村地区委員

欠席者：1名（50音順・敬称略）

1. 報告・連絡・協議事項

- (1) 会報随想 佐伯さん
- (2) 29年度決算と30年度予算の件（別紙）
- (3) 第11回寝屋川映像フェスティバルの結果回顧
 - ・雨であったが、会員皆さんが案内して貰って、恥ずかしくない入場者があった。
- (4) 本年度第2回撮影会（秋）に望むこと
- (5) 文化連盟理事会の報告（新井理事）
 - ・文化連盟展の準備 映像の会場をどこにするか。前回と同一。
 - ・どのような作品を集めるか。募集締め切り7月末頃。
- (6) 第9回ビデオ作品発表会
 - ・2019年5月18日 松心会館 3F会議室
- (7) 市民芸術祭に向けた作品の準備
 - ・今年も9月締め切りのつもりで準備を。
- (8) 会員増強
 - ・新入会員懇談会等での勧誘方法
 - ・他の支部への働きかけを。
- (9) ふれあいフェスタ10月7日への取り組み

2. 映写

- (1) 佐伯さん 「城山ファミリー会『白浜』」 5分
 - ・グループ旅行の映像。大部分を占める写真は佐伯さんお得意のスナップ、後半に挿入した水族館のイルカたちの動画が楽しい。
- (2) 谷さん 「ハイキング部 記録」 12分
 - ・いつものメンバーの記録映像、静止画、動画取り混ぜての記録。グループの一体感が表現されています。行事ごとの区切りが付いていないところもあり。
- (3) 谷さん 「京都府立植物園 紅葉：花」 6分
 - ・紅葉から始まって春から初夏までの花を取り入れています。こういう場合、いつから始まって、いつまで入れるのが良いのかが議論になりました。次の時には回答が出てくることでしょう。
- (4) 竹田さん 「空想旅行 カナダ」 8分37秒
 - ・旅行パンフレットと旅行案内書の画像だけで作ったカナダ旅行。本当にカナダに行って見たようなナレーション付き。このような映像も作れる、と言う見本。

3. 各会員の最近の活動状況・情報交換・当面する問題点等（略）



台風に引き止められて（7月5日）

佐伯 節子

先日弟が亡くなった。68歳。病気が見つかったから8か月。肺がんが脳に転移してからは進行が早かった。医師から、今の状態では容態の急変もあり得ると告げられていたが、見舞いに行った翌日帰らぬ人となった。

「一度は家に帰してやりたいが、一人で看るのは不安だから来てほしい」と義妹に頼まれ、私が行く日にあわせて1日だけの外泊許可をもらい自宅で寝ていた。弟は午後の船の到着を待ちわびて「まだか、まだか」と催促していたという。看護師の娘も同行してくれたので心丈夫だった。

到着したときは、島に住む妹も交えて4人で冗談も交えながら、どうにか会話できたが、夜中に鎮痛剤が効かなくなり、朝になるのを待って救急車で病院に戻る。翌日仕事がある娘は午後の船で帰った。その夜急変。怒涛の日々が始まった。

弟夫婦には子供がいない。一人になってしまった義妹のために、葬儀が終わった後もしばらく私が残って寝起きを共にした。残ったものの留守番くらいしか役に立たないので、天気の良い時には頬被り、手袋、長靴で完全武装して草むしりや庭の木の剪定。

介護のために庭にまで手が回らないので荒れている。草抜きもきりが無く最初に抜いた処に1週間後には草復活。茂りすぎた木は、高枝切りはさみや、大工だった弟の、のこぎりでバッサバッサと枝を落とす。弟は、大事な道具を粗雑に扱ってとハラハラしてみているかもしれない。

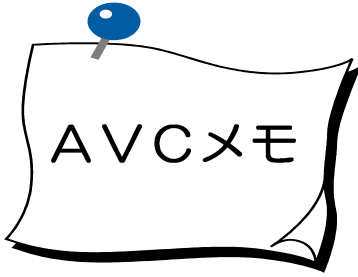
そろそろ大阪に帰ろうとしたら、それまでは晴天続きだったのに台風7号の影響で波が高い。フェリーは欠航しなかったようだが、みんなに「もっと居てあげたら」と引き留められ2週間近くが過ぎた。当初は風があったがだんだん風雨が強まり、連日の大雨。

私は自他ともに認める雨女で、雨に関するエピソードには事欠かない。初めて弟夫婦等と一泊旅行した時も雨だった。そのときにビデオも撮ったのだが編集をしていないのが心残りである。

心残りといえば、最後に弟が苦しい息の下から何か伝えようとしていたが言葉にはならなかった。本人には余命は伝えていないので、まだまだ頑張れると思っていたようで、義妹もそういう話題をさけていたという。元気なうちに「愛している」「ありがとう」感謝の言葉は伝えておかねばと思った。

この台風は、弟が「嫁さんのためにもっと居てくれ」とのサインと受け止めよう。

（この随想は実家で書いたもので、翌日6日に大阪に帰った）



静止画を簡単に編集する映像ソフト

竹田 幸男

映像制作は動画だけに限りません。静止画を使っても、やりようによっては、動画のような雰囲気を出すことができます。例えば6月の例会で映写した、私の「空想旅行 カナダ」のように静止画の連続であってもナレーションと音楽で旅行したような雰囲気を持たせることもできます。

このような使い方は、まだ動画に慣れていない人たちが入門しやすい雰囲気を作ることが出来るでしょう。また団体の活動案内なども、余り慣れない人でも簡単に作ることが出来るでしょう。

静止画だけの作品と言っても、作り方は動画編集用のソフトウェアでも作ることができますが、より簡単には静止画専用の制作ソフトが多く世に出ています。このようなソフトをいろいろ試してみました。

その結果、いろいろ考えなければならぬ事が出てきました。

まず、第1に写真の解像度が損なわれるものが多いということです。このような目的に使われるソフトは、静止した画像をできるだけ動画風に見せるために画をズームしたり、スライドさせたり、パンしたりします。速い動きに耐えるために画素数を減らす必要があるのでしょうか。もう一つは、装飾のために写真の周囲にいろいろな背景を描き足したりしています。こういう部分にデータを割く結果、目的の静止画の画素が犠牲になるのではないかと思います。

ウィンドウズ7の時代に出現した「ウィンドウズ ライブムービーメーカー」は無料の画像・映像編集ソフトウェアであり、写真を使った動画風作品を作る場合にも、比較的画質劣化の少ない良いソフトでしたが、余計な飾りが無いことや、画面の動きが余り派手で無いことが高画質の原因であったのか、と思います。このソフトはウィンドウズ10の出現とともにサービスが停止され、ウィンドウズ10には使えない、とされ、マイクロソフトのサイトからはダウンロード出来なくなりましたが、以前にインストールしたものは、ウィンドウズ10にも問題なく使えてい

るようです。実は、ある製品の機能を生かすために、この「ムービーメーカー」が使える、とあって、あるサイトからダウンロードできる、との案内を貰ったので、使いたい方にはお知らせすることが出来ます。サイトが閉まらない今のうちです。

最近、新しいこの種のソフトとしては「FASTCUT（ファストカット）」と「Fast Flick（ファストフリック）」を使ってみました。前者はドイツの「MAGIX」というメーカーで、ダウンロードで購入できます。後者はコーレルの「ビデオスタジオ2018」に付属した物で、インストールするとビデオスタジオとは別のソフトとして別個のアイコンからスタートできます。

いずれも共通していることは、多数用意された「スタイル」があり、背景や装飾、BGMがあらかじめセットされていて、写真を一括して放り込んで簡単な操作をすると、自動的に写真にいろいろな動きをつけてBGMの付いた動画風作品を完成させます。「スタイル」ごとにBGMが異なっていますが、BGMを取り替えて自分の好きな音楽を入れることも出来ます。

この2つは、比較的画質が良いので気に入っています。ただ、性格が異なっており、「FASTCUT」の方は、写真の順番を好きなように並べ替えることが出来ますが「Fast Flick」の方は写真の順番を自分で選ばせません。お任せです。ですから、何かの行事で、終わりの方で撮った写真が始まりの方に出てくる、と言うことも起こります。時間的経過が気にならない映像、たとえば赤ちゃんの表情だけ、とか、いろいろの花を集めた、というような使い方に向いているでしょう。救済方法はあります。親ソフトのビデオスタジオ2018を起動して本格的な編集画面で順序の入れ替えなどをすることが出来ますが、かなり手間がかかり、少し上級向きになってしまいます。また前者は画面中に文字を入れるのが比較的簡単ですが、後者は、うまくいかないときがあります。

ここでは、素材として写真を使うことを述べてきましたが、この2つのソフトは、素材として写真だけではなく動画も使えます。写真の代わりに動画ファイルを投入すれば良いだけです。動画になっても「Fast Flick」は撮影順序に関わらずランダムに取り込まれるので、完成したときの順序の不自然さは、より強調されてきます。映写順序が後先になっても不自然にならないような映像づくりに適していると思います。

「FASTCUT」は映像ファイルは作れますが、ディスクへの書き込みは出来

ません。別に書き込みソフトを用意する必要があります。「F a s t F l i c k」も、それ自体ではディスクへの書き込みは出来ませんが、出来上がったファイルを親ソフトの「ビデオスタジオ2018」のタイムラインへ持って行けばディスクへの書き込みが出来ます。

まとめると、ある程度作品的に仕上げるには「F A S T C U T」が、簡単に手間をかけずに完成品を仕上げるには「F a s t F l i c k」が向いているのではないかと思います。それでもディスクへ書き込むには、それぞれが、また別の段階を踏まなければならないので、非常に易しいとは言いきれないところがありますね。■